

環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」

富山県（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

・2016年のG 7 富山環境大臣会合で国際的に資源効率性の向上や3Rの推進に協調して取り組む「富山物質循環フレームワーク」が採択されたものの、食品ロスの県民認知度が低く、食品ロス削減の推進に率先して取り組む必要がある。
・本県を訪れる旅行者の観光消費額や滞在時間は全国平均より低い水準にとどまっており、これらの増加に向けた施策を展開する必要があり、この一環として、「立山黒部」や「富山湾」を素材とした観光商品化や高付加価値化に取り組む必要がある。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

【経済面】美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かした経済発展
①富山湾の恵みを活かした産業展開②サステナブル・シーフードの推進③再生可能エネルギーの導入
【社会面】「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立
①レジ袋無料配布廃止、使用済小型家電等のリサイクル②食品ロス・食品廃棄物対策③海岸環境の保全活動
【環境面】地域固有の自然環境・水環境の保全
①森づくりの推進②健全な水循環系の構築③海岸漂着物の削減④国際環境協力の推進

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

【経済面】
①「立山黒部」の世界ブランド化
②国際的ブランド「世界で最も美しい富山湾」の活用
③水産業の振興と富山湾のさかなのブランド力向上
④再生可能エネルギーの導入、新たなエネルギーの利用に向けた開発の促進
【社会面】
⑤循環型社会・低炭素社会づくりの推進
⑥「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立
【環境面】
⑦立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全
⑧環日本海地域の環境保全への国際貢献
⑨清らかな水資源の保全と活用
⑩水と緑の森づくり

5. 取組推進の工夫

・各種計画へSDGsの理念を反映し、全庁的にSDGsに取り組みを推進。
・富山県SDGs宣言を募集し、県SDGsウェブサイトに掲載し、県内企業等のSDGsの取組みを見える化。

6. 取組成果

・「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立：全県的な食品ロス等削減運動（とやま食ロスゼロ作戦）の展開により、食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合が2020年81.3%→2023年88.6%に増加した。
・立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全：水質に係る環境基準の達成は100%を達成している。自主的な環境保全活動、若い世代の理解や参加を促すための体験会・観覧会等の開催等、県民総参加による水環境保全活動を促進。
・水と緑の森づくり：里山林の整備面積については、県民協働による里山整備の推進により、2020年 3,603ha→2023年4,061haに上昇した。
◆富山県SDGs推進連絡協議会の開催（令和6年3月）
市町村や経済界、有識者、N P Oなど多様なステークホルダーとの連携を一層強化し、SDGs達成に向けた取組みを推進するため開催
◆富山県SDGs宣言の募集（令和3年7月～）、富山県SDGs連携推進フォーラム及びワークショップの開催（令和4年11月～令和6年1月）
「富山県SDGs宣言」の募集を実施し、県民や県内企業等におけるSDGs推進を促進。

7. 今後の展開策

・引き続き、「山と森から富山湾へ 清らかな水の循環の創造」を基本理念とした取組みを進めることにより、課題解決に向けた自律的な好循環を創り出し、その成果を内外に発信することで「環境・エネルギーフロントランナー」として地方創生・地域活性化に貢献することを目指す。
・富山県SDGs宣言を行う企業・団体等の掘り起こしや宣言を行った企業等の取組みの優良事例等を発信。企業等の連携による取組みを促進し、県内のSDGsの更なる推進を図る。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

「富山県SDGs宣言連携推進フォーラム」の開催や「富山県SDGs宣言」の募集を実施（R3.7～）。また、「とやま環境フェア2023」や、「第18回食育推進全国大会inとやま」において、「フードドライブ」、「とやま食ロスゼロ作戦」のPRを実施するほか、県内企業等のSDGsの取組みを専用サイトで発信